維持管理部の仕事

最近と言っても、かなり前からだが、維持管理部員から、悲鳴にも似た苦情が上がってきている。「われわれの仕事は、草を刈ったり、肥料をやったり、天狗巣の枝を切ったりして桜の木を「世話することだと思っていた。そういう仕事なら、早く大きくなれよと声をかけ、春になったらいっぱいに花をつけるようにと願いつつ、楽しく仕事をすることができる。しかし、実のところ、それは仕事の半分にもなっていない。一本一本の木の状態はどうかを確認し記録するのが大変時間を要する。そのためには地図が必要だし、木にもネームプレートが必要だ。地図は、現場で照合するのに時間がかかる。また、ネームプレートが、永久的についておればいいが、年月が経つと、支柱は腐って取り除かれる。木に直接ポリプロピレンの結束バンドで、止めてみたが劣化し、風で振動して落ちてしまう。すると、どれがどれだかわからなくなる。勘弁してくれよ。これじゃあ、桜の維持管理じゃなくてネームプレートの維持管理ではないか。」と不平が出てくるのも理解できる。

プレートが支柱についている間はまだよかった。

管理プロジェクトチームの編成

維持管理部会で、議論してきたが、問題が複雑で、これを論議し始めると、自論を主張するばかりで、結論が出そうな気配がなく、会議が進まない。これ以上維持管理部会で議論は続けられないと、江原部会長が決断し、この問題を専門的に議論して結論を出すため、プロジェクトを作った。プロジェクトリーダー道坂優氏。他のメンバーはリーダーが指名することとし、次の各氏が指名された。坂井健次、澤田政利、松岡康成、野口周三。特別要請メンバー江原寛治、西川浩子氏は出席自由だができるだけ参加してほしいというもの。第一回の会合を、1月16日事務所にて開いた。リーダーは3月末までに一応の結論を出したいとしている。

管理表を簡潔に

次回までに、桜一本一本についてどれだけのデータがあれば必要かつ十分かを、各自が考えてくることになった。

現状の分析

現在の会議の方向は極めて現実的だ。

人が少ない

維持管理に奉仕する人たちは、ある程度居るが、これだけ時間を割いて担当できる人はなかなかいないから、最低限にすることに誰も疑問をさしはさまない。いっそ、ネームプレートなど取ってしまったら、どうかという議論も根強くある。

2014年の課題

われわれは何のために苦労している？

桜の維持管理か？
ネームプレートの維持管理か？

植樹者の文句への対応

もともと、個人が寄附して植樹している。木は市に寄贈することを承知の企画である。「自分の桜の育ちが悪い。隣の木は、たくさん花がついているのに、自分の木は細いままである。」とか、「自分の木がみつからない。勝手に間引いたのだろう。」などと電話をかけてくる人たちが居た。もともと、木の世話は植樹した人がすることになっている。ましてや、さくら友の会は、自主的な団体であり、皆手弁当で奉仕している。植樹者に対して、何らの責任も義務もない。

だが、植樹者も深坂の森に桜を植えませんかと言う呼びかけに応えた善意の人たちだ。誰かが、その文句を受け止めてあげないと深坂の森も、世の中も美しくならない。

ネームプレート

これらの植樹者に対応しようとすると、木を一本一本識別し、把握しておくことは必須になる。ネームプレートが必要になる所以である。そればかりではない。一本一本識別し、その成長を観察し記録しているとなると、これはその方面の研究者にとっては貴重なデータとなる。新薬開発のための臨床試験や、新しい植物の品種の開発のための試験栽培などに共通する。責任を以て観察記録することができれば、苗木を無償提供してもらうこともできるかもしれない。否、データを買ってくれるかもしれない。管理に対するアドバイスも得られるかもしれない。肥料の効果を知るために役立つかもしれない。肥料メーカーからも無償で分けてもらえるかもしれない。

シニアーパワーの可能性

自分たちだけの力しか見えてないと、悲観的になる。会員が高齢化する、10年後には消えてなくなるのではないかと不安になる。そして夢や、希望が持てなくなると、若者が来なくなり、不安の通りになる。さくら友の会には、いろいろな能力を持った人たちが居る。その人たちの知恵を借り、能力を十分に発揮してもらえるようにすること、それもまたさくら友の会の目的ではなかったか。現実を見ることも大事だが、前進のためには、挑戦も必要だ。きっと苦労を買ってくれる人も現れる。決してあきらめてはならないと思う。ネームプレートも、いろいろな素材や技術が安価に手にいる時代だ。他所が成功する前に、さくら友の会で成功させたいものだ。２０１４年の課題を乗り越えて、一段と成長して笑いたいものだ。

ネームプレートと取付け方法の数々

―もっとカワイイのありませんかねえ。

接着剤で樹皮に貼付け。板はプラスチック段ボール「

30㎜のアングルを立てているものもある。

ビニールの被服銅線で取付。

結束バンド取付。木に食い込んでいる。